

ノンフィクション性体験レポート

Vol 4.

【被験者】

Name:春佳さん

Job: 会社役員

age:24

体験内容：お嬢様女子校でのレズな思い出

目次

表紙	・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.1
目次	・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.2
インタビューパート①	・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.3
体験告白パート：憧れの先輩に処女を捧げて……	・・・・・・・・・・・・・・・・ P.4～P.12
インタビューパート②	・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.13
体験告白パート：親友（同級生）と濃厚に絡んで……	・・・・・・・・・・・・・・・・ P.14～P.20
インタビューパート③	・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.21
体験告白パート：可愛い後輩の処女を奪う。	・・・・・・・・・・・・・・・・ P.22～P.28
インタビューパート：エピローグ	・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.29

インタビューパート①

“弊社の会社案内を執筆頂けないでしょうか？”

クラウドソーシングでこんな仕事依頼を受けた。

どんな如何わしい会社なのかな、とネットで色々調べてみると…

全国的には無名だが某県では地元経済を支える有名な企業。

文章が下手なのを誤魔化す為にアダルト案件ばかりを引き受けている私、Daishirouの手に負える範囲の案件ではない。

事情を話し丁重にお断りする。

だが、先方の担当者さんには私の様な人間は物珍しかった様で色々聞かれた。聞けばなんと経営者の娘さんだという。

「経験は余りないのですがお話を聞いて頂けませんか？」

上品でピュアなエロい話を聞きたいな。

そう思いチャットを通じてインタビューを開始する。

画面に出てきたのはこれまた育ちが良さそうな上品な美人だった。

春佳：初めまして春佳と申します。普段は父の会社で働いています。年齢は24歳です。

Daishirou（以下：D）：部長さんでしたっけ。若いのに凄いな。

春佳：親のコネです。私の力なんてとても…

D：いやいや、前に部署の売り上げを大まかに教えて貰いましたが、部署だけであれだけ売上は十分凄いです。

ところで今日はどうしてこんなインタビューを受けたいって思ったんですか？

春佳：私はミッション系の女子校で寄宿舎生活を学生時代におくっていました。

そこで…そのDaishirouさんが好きそうな思い出を幾つか作りまして…

誰かに聞いて貰いたいなと…。

ですが社会に出たらそういう場を探すことが難しくて。

個人情報漏れたりする事は無いんですよね？

D：安心してください。肝心な部分はぼかして書きますし、

書きあがったものはこれで大丈夫かどうか目を通して貰うつもりです。

春佳：ありがとうございます。お言葉に甘えて早速お話しさせて頂きますね。

D：（ミッション系の寄宿舎がある女子校って。いきなりお嬢様全開だわ。

しかし、どんな甘酸っぱい系の純愛エロ話なのかね。

ちゃんと書くネタになってくれれば良いけどな。

しかしDaishirouさんが好きそうな話とは…まあ確かに大好きだが、

出会ったばかりで変質者の烙印押されるのはガチで凹むわ)

体験告白パート：憧れの先輩に処女を捧げて…

私が通っていた学校は●●女子という学校の寄宿舎に入寮しました。

地方では有名なお嬢様学校ですから説明はいらない…分かりました。

でも裕福な家庭の娘も多いですが庶民的な家庭の娘も多くいましたよ。

町の開業医さんのお嬢さんですか。

トリプルワークをしている働き者の会社員のお嬢さんですか。

●●女子に進学する前ですか？私の場合は付属からのエスカレーターです。

付属校は自宅から通える距離でしたが、

●●女子は通学するには自宅から離れすぎていましたし、

自立心と協調性を養うには寮生活がすべきだという両親の考えもありまして寄宿舎生活をしたんです。

●●女子の寄宿舎は上級生と新入生の2人1部屋です。

私のルームメイトになったのは3年生の美空先輩という方です。

親元を離れて暮らすという事でワクワクした感情も有りましたが、それ以上に不安な部分もありました。

気持ちを察してくれた先輩に私は大変可愛がって頂きました。

私は一人っ子でしたので姉が出来た様で本当に嬉しかったです。

先輩はどんな人かですか？

隣の県から寄宿舎に入寮された方でお父様は県議会議員さんです。

性格は優しく温厚なのですが芯は大変強い方でした。

勉強は出来ましたが特に語学がお上手でしたね。

身体つきは服を着ていると華奢に見えるのですが、

新体操をやられていたので関節が大変柔らかくどちらかと言えば筋肉質でした。

ウエストの形は凄く綺麗に縊れていましたので羨ましかったですし、

おっぱいはとても形が美しく、

お肌はスベスベで染み一つありませんでした。

どうしてそんな事まで知っているかですか？寄宿舎のお風呂は共同風呂なんで、皆の裸を嫌でも見てしまうんです。それによく部屋で…

「春佳さんのおっぱいって大きいわね？いったい何カップなの？」
「あうう…Gカップです…」
「すごく大きいわね。羨ましいわ」
「そ、そんな大きいだけです。せ、先輩は形も良いですし、
おっぱい以外も…ふああ」

「今、身体ピクンってしたわよ。可愛い」

「先輩、あの…その…」

「どうしたの？」

「キスして欲しいです」

「もうモジモジ恥ずかしがっちゃって。可愛い」

唇を重ねて互いの舌を絡ませながら口内で唾液の交換します。

先輩の暖かい唾液を口内でクチュクチュしていると

甘い香りが口いっぱいに広がってとろけそうになるんです。

先輩とはこんなスキンシップをよくしました。

最初はパジャマ越しに身体を軽く触り合う程度だったんですが、
段々エスカレートしていき揉んだり舐めたりする様になりました。

着ている物もパジャマから下着だけになり、

気付いたら裸でいつもする様になっていました。

女性性器を間近で見たのは先輩のモノが初めてでした。

どうだったかですか？最初見た時はグロテスクに感じましたが、

何回も見たり触ったり匂いを嗅いだりしていると、

不思議と美しいと思う様になりました。

陰茎は比較的大きかったんですがキレイなピンク色で陰核は比較的小粒でした。

アンダーヘアは特に整える様な事はしていないのに、

キレイな逆三角形で女性の私ですら格好いいと思ってしまう形状でした。

どうして女性器の形状まで比較できるのか？

先輩以外にも女性と経験があるのかですか？

詳しい事はこの後にお話し致します。

先輩との思い出の続きをお話ししますね。

先輩とのスキンシップはお風呂を出てからよくしていました。

あの日は寒くなり始めた丁度今くらいの季節だったと思います。

お風呂を出てからいつもの様にスキンシップを始めました。